

市立芦屋病院改革プラン

～点検・評価～

1. 点検・評価の仕組みとねらい

改革プランに基づいて市立芦屋病院が地域の中核病院として今後ともその使命と役割を果たすことにより、持続的で良質な医療サービスの提供主体となるためには、改革プランに掲げられた各目標が確実に実施されることが前提となることは自明の理である。

そこで、わたしたち改革プラン策定委員会の各委員にあっては、その責任を果たす意味からも、評価委員会では、改革プランが計画どおりに進捗しているのかという進行管理を半期ごとに行うに際しては、病院からの実績報告に基づきその実効性や達成率に関する指導と助言を行うこととした。

また、依然として流動的な医療情勢に即応するため、計画を固定的に捉えるのではなく臨機応変な取組を促すための新たな意見を付すことなどを主眼として開催するものとした。年度の終期にあたっては、これらに加えて当期決算との整合性や、最終的な収支改善の実態、今後の見通しなどを合わせて点検し、これらを総合的に評価することにより次年度以降の改革に資することを目的とした。

2. 総合的な評価と所見（総評）

改革プランも4年目に入り、この間に手がけられた数々の取組を短期間に実行するため、その先頭に立ってこれを積極的にリードされた佐治事業管理者、そして病院全体をまとめられた金山病院長はじめ、病院職員全員の努力に心から敬意を表したい。

平成24年度は、開院60周年の節目を迎えるとともに、平成21年度に着工した病棟更新築工事も年度末に無事竣工し、記念式典等を盛大に開催された。

6月に稼働した新病棟は4階建てで、病床の3分の2を個室とするなど「プライバシーの配慮」と「アメニティの充実」に配慮した病院として、患者さんからも好評を得ている。2月には駐車場棟が完成し、約200台の駐車スペースを確保できたことで、これまでの交通アクセス問題を一気に解決された。3月末には隣接する市の山麓公園を含めて約6,000平米にも及ぶ公園・緑地の完成により、緑に包まれた美しい病院として生まれ変わった。

とりわけ改革プランにおける大きな柱の一つである緩和ケア病棟が開設され、緩和ケア内科医師、緩和薬物療法認定薬剤師、緩和ケア認定看護師、がん看護専門看護師等を中心として、MSW、栄養士、理学療法士、ボランティア等とが連携し、質の高い療養環境を提供している。終末期だけでなくがん治療の初期の段階から関わられ、患者のみならずその家族に対して心のケア等を含め適切な支援を行うなどの体制を整えている。

また、8月には待望の電子カルテの稼働に伴い、フィルムレス及びペーパーレス化による業務の円滑化を図るほか、診察待ち時間の短縮、医療情報の共有化及び医療安全の向上が

図られている。

病院経営を継続しての現地建替のため、3年1ヶ月にもわたる病院職員の苦労も相当なものであったと察するが、計画どおり更新築工事が完了されたことに改めて敬意を表したい。

次に収支計画について、純損失はこれまで毎年度改善されているところであったが、平成24年度決算見込においては当初予算を約1億7千万円上回る7億2千万円の赤字となっている。

この要因として、収益においては、患者数が当初予算の目標に達していないことから入院収益、外来収益、室料差額収益で、それぞれ6千万円、2千万円、2千万円の減額となっており、早急な増患対策が必要である。さらに外科系救急に要する経費の減額により、一般会計からの負担金が9千万円減額となっている。

費用では、給与費が約1億6千万円減額となっているが、これは上半期における患者数の伸びをみながら、正規看護師の採用調整を行うなかで嘱託看護師の活用を図り人件費の抑制に努めた結果である。今後共、患者数の推移をみて運営に支障が発生しないように、採用計画に十分な手立てをしていただきたい。消費税では、病棟建設等に係る控除対象外消費税が1億8千万円、減価償却費等では旧病棟等の除却費9千万円が当初予算より増額となっている。前年度からの工事の繰越や医療機器の廃棄処分があったとしても、これらは収支計画を策定する段階で予測できるものであり、より一層の精度向上に努めていただきたい。

職員給与比率については、病院はマンパワーが支える事業であることから、人的資源の確保及び育成に最大の努力を払っていただくことは必要であるが、昨年度も指摘したとおり、依然として民間病院等と比較して高い状態にあるため、なお一層の適正化に取り組んでいただきたい。

最後に、患者数が入院、外来ともに当初予算の目標値を下回っているが、幸いにして、前年度決算と比較すると、収益が入院、外来ともに着実に増加している。改革プランの最終年度である今年度は、増患対策はもとより残されたすべての課題に精力的に取り組み、経営改善を進めていただきたい。

佐治事業管理者及び小関新病院長の下で、医師、看護師、コメディカル、事務職員がそれぞれの立場で持てる力を発揮することで、患者数の確保をはじめとした改革プランの各項目が達成されるものと大いに期待する。

平成25年7月18日

市立芦屋病院改革プラン評価委員会
委員長 松田 暉